

ともに生きるためのエイズ ～当事者と社会が克服していくために～ (玉城英彦著 彩流社)



国立病院機構沖縄病院 院長 石川 清司

著者は、沖縄本島北部、今帰仁村古宇利島の出身である。私とは、名護高校時代の同期であり、級友であり、やんばらの自然をこよなく愛する仲間でもある。

高校時代はテニス部に属し、練習に明け暮れた。その勢いが現在も続いているかのように精力的に著作活動を展開している。恋島への手紙～古宇利島の思い出を辿って（新生出版）、世界へ翔ぶ～国連機関をめざすあなたへ（彩流社）、社会が病気をつくる～持続可能な未来のために（角川学芸出版）等の著作がある。

長い間のWHO本部での勤務の後、現在、北海道大学の医学部で教鞭をとっている。WHOでのエイズの疫学、感染予防対策で陣頭指揮をとった経験のまとめの書である。

かつて「らい予防法」が悲惨な人権侵害を引き起こしたように、「エイズ」という疾患もまた同様の社会現象を引き起こしていることに対する警鐘の書とも言える。

「エイズ」という用語は、一般市民の間で日常的に用いられている。しかし、その疾患に対する情報が正確に伝わっているかどうかは疑問である。本書を一読してみて、「エイズ」という疾患の背後に潜む社会現象は、医療従事者にも理解できていないことが分かる。ましてや、一般市民には、表面的な現象のみが偏見として映し出されているのが現状であろう。

エイズとは、後天性免疫不全症候群と訳され、ウイルス感染である。感染してから症状が出るまでには数年から10年以上もかかると言われている。感染のルートは①性行為、②輸血、③母子感染と3つがあり、咳や皮膚が触れるなどのことでは感染しない。約80%が性交渉で発

生し、そのほとんどが異性間の性行為による。

著者は、先進諸国の中で、日本はエイズ感染者、患者が増加の一途をたどっている特殊な国だと指摘し、注意を喚起している。

エイズが問題となった発端は、ゲイの社会にあり、同性間（男性間）の性行為は感染のリスクがより高くなる。どのような社会、民族にも同性愛者は存在し、少数派であるがために迫害を受けていると著者は寛大に受け止めている。日本人には理解しがたい社会だと考えるが、保守的の一言でかたづけて良いものであるだろうか。性教育のよってたつ基盤はいずこに。

著者は主張する。国民は、エイズに関して理解を深めてもらいたい。感染者に対しては早期発見による早期治療に臨んで欲しい。エイズはコントロール可能な疾患である。このことが、社会においては感染の拡大を防止することにつながる…と。

古宇利島という小さな島から、世界規模で物事を考え、行動していくこの著者のエネルギーは、やはり沖縄の青い海と青い空の構成する限りない空間が後押ししているような気がする。益々の活躍を期待したい。






沖縄県ドクターバンクからのお知らせ

沖縄県ドクターバンクでは

- ✦ 再就業を希望する医師のお手伝いをします
- ✦ 育児支援や生活支援に関する情報を提供します
- ✦ 医師の求人募集を紹介します

まずは、お気軽にご相談ください

- ✦ 相談員が個々の相談に対応します
- ✦ 医療機関からの医師の求人情報を代行して紹介します

MENU	Contents
再就業支援	再就業・再研修の情報提供や相談 
育児支援	保育に関する情報提供や相談 
生活支援	掃除・洗濯、子供の世話等、家事支援の情報提供や相談 

ホームページも開設しています

- ✦ URL : <http://www.d-bank.okinawa.med.or.jp/Portal/>



沖縄県ドクターバンク
南風原町字新川 218-9
(沖縄県医師会館内)
TEL. 098 - 888 - 0087
相談員:山城

